

町家が紡ぐ津島のまちなみ【優秀賞】



設計者

田辺誠史

◎設計主旨

本町筋周辺のまちなみは、駐車場や空地が目立ち、まちなみの連続性が失われつつあります。本計画は、「連続したまちなみを形成する駐車場計画」と「町家型コモンスペース」をまちなみ整備の軸とし、町家の特性を生かした「床の家と間戸の家」が空洞化したまちを紡ぎ、まちなみ再生を目指した計画を提案します。

本町筋周辺のまちの区画割りが大きいことに着目し、区画の中心に地域の駐車場を設けてまちなみの連続性を確保しつつ、まちの奥行きも作り出します。

地域の駐車場と町家をつなぐ路地やコモンスペースは、地域コミュニティ形成を促すセミパブリックスペースとなります。また、住戸内とコモンスペースの床レベルをフラットにすることで、住戸内のアクティビティが外へ広がり、この空間がセミプライベートスペースにも変容する柔和かつ魅力的な町家型コモンスペースとなります。

住戸計画は、既存のまちなみとの調和を考慮しつつ、光と風が通る快適な住まいを目指しました。

床の家は、「土間の床」「畳の床」「くつろぎの床」「子供の床」「夫婦の床」の5つの床で空間を構成し、大きな1室空間でありながらも各々がゆるやかに繋がっていきます。

間戸の家は、「外間戸」「高間戸」「内間戸」「格子間戸」「天間戸」の5つの間戸を設け、各々から光・風の授受、プライバシーの調整、景色の取り込み等を行います。吹抜からロフトが一体とした空間は、各居室へ光や風を享受する役割を果たします。

◎講評

○難波和彦審査委員長

町家にとって最大の問題である駐車場の取り方を中心的なコンセプトとした提案です。本町筋の面した駐車場付きの町家と、別の場所にまとまった駐車場を置き路地によってアプローチする町家の二種類を提案しています。

町家の住まい方や街並みに対する提案性がやや弱いので、審査委員長としては優秀賞には推薦できませんでしたが、駐車場の機能的問題がうまく解決されている点において、他の審査員の高評価を得ました。保存と再生における機能性とデザイン性の対比を示す好例といえるでしょう。

○朝岡市郎審査委員

本町筋の現在のおもむきを保存しながら、いま、この地域に住む人が快適に暮らせる提案です。少しずつ風化しつつある現在の町家をこれ以上、風化させないための素晴らしい提案であることが高く評価されたと思います。

○浅野聡審査委員

この提案は、津島の本町筋が直面する現実的な課題として駐車場不足をとりあげ、敷地スケールではなく街区スケールでの解決を目指している点が高く評価出来ると思われます。

歴史的町並みの保全再生の現場では、自家用駐車場を設置したために町家を取り壊し、セットバックして新築をしたいという所有者の要望は大変に多いのが実情です。

街区スケールで合意された地域社会の協調によって、連続した町並みの保全形成と駐車場の確保を両立させている点が、高く評価されました。

○生田京子審査委員

町家にて問題となっている駐車場確保に関して真摯に解決しようと取り組む意欲作である。しかし、背面に人の集う空間ができる一方で、街道沿いが単調な駐車スペースになっているなど、街道沿いの復興に関するデザイン提案が乏しいのが気になる点であった。

○清水裕之審査委員

この案は、比較的大きな敷地をもつ、津島の町屋の裏側の空間に着目し、その有効な活用によって、面としての町屋ゾーンの改善、活性化を図ろうとしているところに非常に好感が持てた。

特に、接道義務など既存の法規を理解したうえで、地域の駐車場の集約や複数の家屋を繋ぐコモンスペースの創出などをきめ細かく配慮しており、優れたコーディネーターとしてのディベロッパーの存在や地権者の合意を取ることができれば、今からすぐにでも実行に移すことができそうなアイデアであることが高く評価された。ここに示されている試みを何とか実現させてみたいものである。

○日比一昭審査委員

駐車場や空き地が町並みの連続性を失わせている本町筋を、「地域の駐車場」と「路地のコモンスペース」などで、地域コミュニティ形成を促す「仕掛け」を造るとアイデアは、参考になる提案である。

町並みの調和を考慮した格子やうだつを利用して、津島の町家の特徴を承継している。そして、住戸計画では「床の家」「間戸の家」というコンセプトに基づき、住空間を提案され、魅力的な町家プランとなったことを評価したい。